

安全輸送スローガン

我社は、安全管理規程にのっとり、輸送安全確保にたゆまなく努力をします。また、関係法令を遵守し地域に信頼される健全な企業を目指します。

令和7年度 安全目標

- 横断歩道における歩行者優先の徹底
- 右左折時一旦停止の徹底
- 飲酒運転撲滅
- クレーム～0件
- 車内事故防止の徹底
(車内マイクを活用し、車内事故防止の注意喚起を励行)
- 車庫・駅・駐車場での自損事故の撲滅
- ※ 事故件数削減数

加害事故種別	令和7年度目標件数	令和6年度件数
人身事故	0 件	1 件
車内事故	0 件	0 件
物損事故	0 件	3 件
車庫・駅・駐車場等事故	0 件	7 件

班別無事故競争 目標：全班～無事故

- 令和7年春の交通安全運動（4月6日～4月15日）
班別無事故競争（4月6日～5月31日 56日間）
- 令和7年秋の交通安全運動（9月21日～9月30日）
班別無事故競争（9月21日～11月15日 56日間）

下津井電鉄株式会社
安全輸送サービス推進委員会

令和7年度 年間努力目標

年間 スローガン	ルールを守り無事故の実践 プロの意識で事故防止	
	月間努力目標	指導ポイント
4月	バスを運転する心構え	<ul style="list-style-type: none"> ・安全は全てにおいて優先する ・思いやり、譲り合い運転の徹底
5月	危険予測運転の徹底で事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・危険を予測した減速、徐行、一旦停止 ・歩行者、自転車、二輪車などの行動特性を把握しよう
6月	車両構造上の特性を把握	<ul style="list-style-type: none"> ・死角に隠れた危険を予測し、オーバーハングや内輪差を考慮した運転 ・慎重に後退し、安全が確保できなければ降車しての目視確認
7月	車内事故防止対策の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・車内ミラーなどを活用した着座確認の徹底 ・発進時、停車時などマイクを活用したお客様への注意喚起の重要性
8月	健康起因事故の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・健全な生活習慣と健康管理 ・十分な睡眠と過労防止
9月	運行道路、経路の安全確認	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れた道ほど慎重に、油断を排除しよう ・時間帯によって変化する道路状況を見極めよう
10月	乗降時の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・扉の操作は必ずミラーと目視で安全確認 ・完全停車後の開扉、完全閉扉後の発車
11月	乗車中の旅客の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・急発進・急停車・急ハンドルの危険性 ・滑らかな発車と緩やかな停車の励行
12月	気焦り運転の排除	<ul style="list-style-type: none"> ・回復運転は事故の元 ・ゆとり運転で一般ドライバーの手本となろう
1月	冬期運転による事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・凍結しやすい場所での路面状況の把握 ・「急」のつく運転はしない
2月	危険を予測した防衛運転の励行	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者・自転車の動向を予測 ・右左折時等における死角の把握
3月	運転適性に応じた運転	<ul style="list-style-type: none"> ・適性診断結果を把握し、自分の弱点を理解しよう ・動作優先を排除し、行動前の確認を確実に実施しよう

大地震発生時の措置

- 1.止める…ハザードランプを点灯し、周囲の安全を確認後、交差点を避け道路の左側にバスを停車する。
- 2.確かめる…乗客に地震が発生し、停車したことを説明し、地震情報や道路及び周辺の状態を確認する。
- 3.知らせる…運行管理者(本社又は営業所等)に状況を報告する。

乗客に今後の運行について説明する。

- 4.離れる…降車してもらう場合は、最も安全と思われる場所で、乗客の降車を誘導する。
- 5.車両の措置…やむを得ず、バスを放置する場合は、エンジンを止め、サイドブレーキを掛け、エンジンキーは、つけたままにする。また、窓は閉め、ドアはロックしないようにする。
- 6.導く…状況によっては、降車した乗客の避難誘導や負傷者の救護処置等に当たる。

異常気象時の措置(簡略版)

- 1.緊急連絡体制による情報共有に徹し、組織的な対応をする。
- 2.運行の変更、中止などの具体的な基準に則った運行をする。
- 3.「運行できるだろう」「通過できるだろう」安易な独断決行は決してしない。まず、乗客やバスの安全確保、営業所・運行管理者への連絡をする。
- 4.局地的な大雨による冠水や通行規制に注意する。
- 5.強風や突風などによる横転事故に注意する。
- 6.乗客の安全を最優先し、安全な場所に避難する。
- 7.運行管理者は、災害の危険度が高まっているかを気象庁のホームページやスマホアプリで確認。バスを避難させる場合は速やかに指示。
- 8.記録的短時間大雨情報に注意する。

異常気象時の措置(詳細版)

- 1.局地的な大雨、台風による洪水災害、低気圧による突風、竜巻、大雪など、「運行途中に異常気象に巻き込まれた場合、迅速に対応するための連絡網を構築し、日頃から体制を整えておく。
- 2.適切な指示が出せるよう、平素からハザードマップなど必要な資料の入手に努め、安全なルートなどを把握しておく。
- 3.運行を中止するか、待機するかなど判断をするための具体的な基準を決めておく。
- 4.局地的な大雨の時などは、高架下等がアンダーパス構造となっている場所(鉄道の高架下など周囲より急に低くなっている道路)が冠水することなど、危険個所のチェックをするとともに、ドライバーに対して安全に走行するよう徹底する。
- 5.低気圧や台風の接近で風の強い日は、橋や高架を走行するときに規制速度を守り、できるだけスピードを落として走行するよう徹底する。
- 6.少しでも不安を感じたら、現場の判断で勇気を持って運行を停止し、「乗客の安全を最優先する」、「安全な場所に避難する」よう徹底する。

バスジャック・テロ時の措置

- 1.乗客の安全確保を最優先する。
- 2.運行の安全確保に最善をつくす。
- 3.乗客及び運行の安全を確保するため、犯人を刺激しないよう、要求に従って行動する。
- 4.状況を判断した上で、犯人に気づかれないよう、非常用防犯灯等の緊急連絡装置を作動させる。または、非常点滅表示灯(ハザードランプ)の点灯を継続し、あわせてパッシングを繰り返す。

バス乗務員安全運転6則

- ①プロ運転者としての自覚を持ち、公共交通機関としての社会的役割を認識し、安全運転に徹しよう。
- ②確実な日常点検の励行と、厳正な点呼による指示事項を遵守しよう。
- ③バスの構造上の特性を理解し、特性に応じた運転をしよう。
- ④乗客の安全確保を意識した運転をしよう。
- ⑤運行経路上の安全情報を意識し、危険を予測した防衛運転をしよう。
- ⑥健康管理を徹底し、飲酒運転・酒気帯び運転及び覚せい剤等の使用を撲滅しよう。

路線バス車内事故防止6則

- ①乗車された高齢者、子ども、妊婦等の動向に注視し、車内アナウンスで、着座を誘導しよう。
- ②発進時は、着席の確認と車内アナウンス等で「発車します」の注意喚起をし、滑らかな運転操作で発進をしよう。
- ③走行中は、周囲の道路状況の把握に努め、「急」がつく運転とならないよう、車間距離の確保に努めよう。
- ④バス停到着前に車内アナウンスで「バスが止まり、扉が開いてから席をお立ちください。」などの注意喚起をしよう。
- ⑤降車されるお客様が完全に降りられて扉操作しよう。
- ⑥事故発生時は、負傷者の救護処置を最優先し、運行管理者などに状況を報告しよう。

貸切バス車内事故防止3則

- ①お客様にシートベルトの着用を案内し、着用状況を確認しよう。
- ②走行中は、「急」がつく運転にならないよう、道路状況に応じた運転を心がけよう。
- ③事故発生時は、速やかに負傷者の救護処置を行い、運行管理者などに状況を報告しよう。

高速道路安全運転6則

- ①お客様にシートベルトの着用を案内し、着用状況を確認しよう。
- ②法定速度を厳守し、道路状況に応じた安全な速度で十分な車間距離を確保し運転しよう。
- ③高速道路の危険性を把握して車間距離を確保しよう。
- ④道路状況等の把握に努めるため、道路標識・案内標識からの情報を把握しよう。
- ⑤合図は早めに出し、不必要な車線変更はしないようにしよう。
- ⑥非常時には、トンネル内・橋の上を避けて停車し、非常点滅表示灯、駐車灯または尾灯を点灯させ、停止表示器材、発炎筒などを設置しよう。非常電話等で通報を行い、速やかに旅客を安全な場所に避難誘導しよう。

- 5.無線、携帯電話等の通信機器が装備されており、その使用が可能な場合には、犯人に気づかれないよう、営業所及び警察(110番)に連絡する。
- 6.無謀な犯人逮捕などは行わず、警察の対応に対して、できる限りの協力を行う。
- 7.社内の連絡・報告は、本社への連絡報告を最優先し、各社が定めた緊急連絡網により行う。
- 8.連絡・報告は、次の事項について簡単、明瞭かつ迅速に行う。「いつ、どこで、どこ発どこ行きが乗客何人を乗せ何が起きたか。」

夏期安全運転6則

- ①規則正しい生活で体調維持に努め、過労運転や漫然運転にならないよう十分な休養を確保しよう。
- ②熱中症予防のため、こまめな水分補給を早めにしよう。
- ③運転中に「気分が悪い」などの自覚症状があった場合は、迷わず車両を停止させ、すぐに運行管理者などに報告しよう。
- ④暑さによる集中力の低下や寝不足が運転に影響する危険を自覚しよう。
- ⑤暑くなり飲酒量が増える時期です。飲酒による運転への危険性を理解し、飲酒運転を根絶しよう。
- ⑥子どもの飛び出しなど危険を予測した安全運転を励行しよう。

冬期(積雪・凍結)安全運転6則

- ①冬用タイヤを装着し、タイヤチェーンを携行しよう。
- ②タイヤチェーンの「着」は早めに、「脱」は遅めにしよう。
また、チェーンの着脱時は、サイドブレーキの引き忘れに注意し、安全な場所で行おう。
- ③「急発進・急加速・急ハンドル・急ブレーキ」は絶対に避けよう。
- ④路面状況に対応して、エンジンブレーキや排気ブレーキを十分活用し、早めに減速や徐行をしよう。
(タイヤをロックさせないよう注意しよう。)
- ⑤橋の上、トンネルの出入口、山道、日当たりの悪い場所など凍結しやすい場所では路面変化に注意しよう。
- ⑥事前に気象情報を収集し、積雪、凍結等の発生しやすい区間の道路状況の把握に努めよう。

行楽期安全運転6則

- ①渋滞でイライラによる先急ぎ運転が安全運転に与える影響を理解して、事故防止につとめよう。
- ②他府県ナンバー車による急な車線変更、急停車などを予測した防衛運転で事故防止につとめよう。
- ③安全速度を厳守し「先ず止まれ」を励行しよう。
- ④集客施設等周辺では、危険を予測した「かもしれない」運転をしよう。
- ⑤「考えごと」や「脇見運転」、「漫然運転」絶対に排除しよう。
- ⑥飲酒運転、酒気帯び運転による悲惨な事故を根絶しよう。

降雨期安全運転6則

- ①速度は晴天時の80%以下とし車間距離は通常の2倍以上確保
- ②無理な追越し離合を避け「危ない」と思ったら先ず止まれ
- ③傘をさしている歩行者や自転車の動向に特に注意しよう。
- ④カーブ手前では速度を落とし、急ハンドル、急ブレーキなどの「急」のつく操作は行わないように注意しよう。
- ⑤ヘッドライト等を積極的に点灯して、走行しよう。
- ⑥視界不良時はスピードを控え、車間距離を長めにとり、慎重に運転しよう。